

事業所名 KIDSクラブたわら

公表日 令和7年5月5日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	空間は十分で、利用定員を遵守した対応をしている。	1日の児童の利用が増えてきているので、空間配置と利用者数をうまく工夫する必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	職員の人数は適切である。	子どもの特性に応じて、スタッフの空間配置が不十分な面がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	構造化は改善されてきている。 部屋を仕切り扉はスライドドアになっており、段差もなく、手すりも設置、壁に絵カードやおもちゃを元の位置に戻せるよう写真を貼るなど工夫している。	まだ、部分的にわかりにくい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	清掃している為、はだしで歩いて活動しやすい空間になっている。児童が広々と過ごせる空間があり、また、馬場の芝生で走り回れる空間がある。	空間がやや雑多な面があり、整理整頓を十分にしていく必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	静養室や相談室を利用して、児童が個別に過ごせる空間を提供している。また、馬場を利用して、刺激の少ない空間を提供している。集中して勉強したい、面談に適切な個室がある。	静養室を遊び場にしてしまうとところがあり、児童の安心できる空間の設定がもっと必要である。
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	4	業務改善にスタッフは積極的である。	目標設定が十分でない。PDCAサイクルの意識が不十分である。広くスタッフが参画できていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	保護者向け評価表の内容を反映するよう尽力はしている。	プログラムの実施状況や安全面、ハードウェアの問題で十分に反映できていないところがある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	朝のミーティングや定期的な会議で意見を出し合い、業務改善に尽力している。	スタッフ間での認識が十分でなかったり、管理者の意見が強く反映されてしまう面がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6	未実施 月に1度、運営会議を開き、一部の各部署の職員同席で、業務の見直しなど話している。	外部評価が進んでおらず、今後進めていく必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	定期的に部署内研修や法人内の研修を実施している。また外部研修への参加をしている。	業務のため、外部の研修への参加が十分でなかったり、同じスタッフが受講し伝達する流れになってしまっている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	ホームページにてホースセラピー、集団プログラム、その他個別対応について5領域に基づいた支援プログラムを作成、公表している。	スタッフ間での認識が十分でない。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	2	作業療法士や公認心理師、保育士、介護福祉士等が専門性を活かしてアセスメントし、その上で計画を作成するようにしている。	主に児童発達支援管理責任者（作業療法士、公認心理師）の視点での作成が主になってしまっている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2	計画作成時、全スタッフから意見を聞き、それを反映するよう努めている。	計画内容の周知がスタッフ間で不十分になっている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	4	朝のミーティングやケース会議で共有するようにしている。	個々の児童に対しての支援内容が職員間で統一できていない。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3	観察や関わりながらの評価といったインフォーマルアセスメントを主にしている。	フォーマルアセスメントとしてVainland-IIを使用し始めているが、十分でない。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	個別支援計画では、本人支援、家族支援、移行支援等必要な内容を列挙している。大きな変化がない児童の状況であっても、スモールステップを見据えて計画の変更を実施している。	多職種連携の不十分な面もあって支援内容の設定の不十分さ、具体性の低さがある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	スタッフ全員でアイデアを出し合っている。	実施したプログラムの振り返りが不十分である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	毎月内容を変えて提供している。	5領域を見据えた活動プログラムとしては偏った内容の提供となっている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	ホースセラピーおよび集団プログラムを中心とたい集団活動の時間を設定し、それ以外の時間で個別活動を行う時間を設定している。	活動の時間設定が十分でない面がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	朝のミーティングでその日の活動、時間配分、方法を確認している。	役割分担が十分でないところがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	5	当日でなく次の日に振り返っている。後日、ミーティングで情報共有をしている。	当日に時間が設定できず、次の日の振り返りが十分でないときもある。必ずしも、当日に振り返りをするのが時間的に難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	保護者向けの連絡ノートに加え、子ども個々の記録を作成している。	記録の記述する際の方法で統一性に欠ける面がある。集団活動など活動内容の振り返りが十分でない面がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	2	スタッフ全員への情報収集と、保護者からの情報収集、面談を行っている。	見直しに対して十分でない面がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	1	多様なプログラムを実施して、複数の組み合わせで支援している。	作成したプログラムにおいて、基本活動を意識した内容としては十分でないところがある。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	部屋のレイアウトや実施するプログラムの方法などで、児童の意見を尊重している。	ホースセラピーや運動プログラムなど、安全を配慮してスタッフが決めてしまうところもある。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	関係機関の会議には、児童発達支援管理責任者、もしくは児童について専門的に評価しているスタッフが参画している。	会議内容の周知がスタッフ間で不十分になっている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	関連の医療施設との連携をしている。必要に応じて、児童のかかりつけ医に対し情報提供書を作成している。	地域の保育園、子ども園や、障がい者施設との連携はほとんどできていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	一部の小学校において、下校時刻や年間予定等の情報をいただいている、保護者からも情報を得ている。	一部の地域の学校との連絡が十分ではない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	6	保護者の希望や必要に応じて情報共有と相互理解のための準備はある。	現状ではできていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	6	保護者や事業所の要望に応じ、情報提供する準備はある。	現在1名のみ卒業があり、その時点では情報提供はしていない。開設してから2年半、現時点で対象者が1名で、十分に情報は提供していないと思う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	連携をする準備はある。	連携は不十分である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	児童クラブの利用のある児童について、情報交換をすることはある。関連の学校法人主催のイベントへの参加を通して交流は行っている。	十分な交流はできていない。年に1度、同じ法人の専門学校で文化祭を開いた際、地域の人と交流の機会はあった。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	四條畷市の放課後等デイサービス部会は参加している。	自立支援協議会への参加はできていない。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時に児童の様子や変化を口頭で伝えて情報共有を行っている。また連絡ノートも提供している。必要に応じて支援実施後や翌日に保護者と連絡をしている。	保護者との電話連絡時に長時間になることがあり、適切な時間設定が必要である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7	家族への情報提供はしている。	家族支援プログラムや家族向けの研修が実施できていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	説明時は書面を提示してできるだけ細かく説明している。また、保護者の疑問点や相談に応じている。	説明が分かりにくいところがあり、説明方法の見直しが必要である。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者との面談や電話、送迎時の対応、連絡ノートで保護者の意思を確認している。	子どもの意思の確認が活動時であることが多い。また子どもの利益が最優先となっていない部分がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	2	対面、書面を確認しての電話連絡などで書面を提示して説明と確認を行い、その上で同意を得ている。	書面の確認をしてもらい、同意を得ているおり、説明が不十分なときがある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	利用の児童のことだけでなく、兄弟児やご家族のことについて相談を受けている。	相談内容や児童によっては、相談対応にばらつきがある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	6	発達障がい児の保護者の会へ協力をしている。	保護者会等での保護者同士の交流の場を作ることができていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	契約時に苦情相談、虐待防止について説明し、市町村への連絡方法も伝えている。	苦情に対し、保護者や児童の要望に十分に添えていない面がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	毎月、通信を発行し保護者に配布している。また、InstagramとHPにて情報を発信している。	情報を公開するSNSの利用がInstagramのみである。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報の取り扱い方法に応じて、同意書を作成している。保護者の許可がない限り、他の児童や保護者への情報を提供しないようにしている。	事業所内管理の中で、不十分な面があり、一層取り扱いを留意する必要と意識づけが必要である。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	絵カードや筆談、iPadやパソコンの意思伝達ツールを用意し利用している。	ツールを十分に活用できていない。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	関連の学校主催のイベントに参加し、地域との交流を図っている。見学の希望は柔軟に受け入れている。	事業所としてのイベントが実施されていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	3	防災訓練を活動プログラムに月1回入れており、児童と一緒に取り組んでいる。	家族等への周知は不十分である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	関連施設と共に訓練等を行っている。	BCPの見直しが不十分でその周知も十分でない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	2	契約時などで児童の服薬、てんかん等について情報を得ており、対応法も確認している。必要に応じて保護者に確認している。	予防接種の内容はほとんど情報を得ておらず、保護者からの聞き取りでの情報がほとんどである。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	4	契約時などで児童の食物アレルギーについて情報を得ており、必要に応じて保護者に確認している。	保護者からの情報に基づいているのみで、医師の指示書には基づいていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2	法人内の研修や訓練も活用し、安全対策を実施した上で支援している。	支援活動全体としての安全対策が十分でない面がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2	事業所内での共有となっている。	周知が十分でない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	必要に応じて会議で再発防止を検討している。	再発防止の話し合いが不十分である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1	虐待防止のための研修を実施したり、法人内のビデオ研修を活用、個々の内容によっては市町村に確認している。	虐待防止の研修が最低限となっている。

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	4	身体拘束は今まで実施がない。実施が必要な際は必要な手順に基づき実施していく。	万が一の身体拘束時に対する手順や手続きが不明確である。
----	--	---	---	--	-----------------------------